事例No.	1902
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	岡山県玉野市

事例区分	公営企業

タグ	・病院事業 ・組織改革 ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	地独法化

事例内容・タイトル

市立病院と民間病院の再編

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【岡山県玉野市】
市立病院と民間病院の再編

地独法化　病院事業

岡山県玉野市病院事業管理課

● 取組の概要

安定的かつ持続可能な地域医療提供体制を構築するため、地方独立行政法人制度を活用し市内2病院での経営統合を行った。あわせて、限りある医療資源を集約し地域の中核病院としての機能をもった新病院を建設する。

◆総事業費　設立出資金5億円、 新病院整備費80億円

◆背景

- 医師の高齢化、新たな医師確保ができない状況が続くとともに施設の老朽化が進み、これまでの医療体制を維持していくことが困難となるなか、地域医療のあり方を見直す必要があった。
- これらの課題を解決するため、市内で中核を担う複数の医療機関や関係者が参画した協議会を設置し、地域の医療体制について検討を行うこととした。

◆具体的内容

- 市立病院と企業立病院において地方独立行政法人制度のもとで、経営統合を行った。
- 人口減少に伴う将来的な医療需要の減少を勘案して、病床数の削減を行ったうえで新病院における施設統合を令和6年度までに実施する。

◆効果

- 2つの病院が連携、一体的な運用を行うことで、単独病院では対応できなかった分野（感染症対応など）での医療体制を確保した。
- 新病院移行による施設統合を行うことで収入確保、経費削減等の経営面での効率化が期待される。

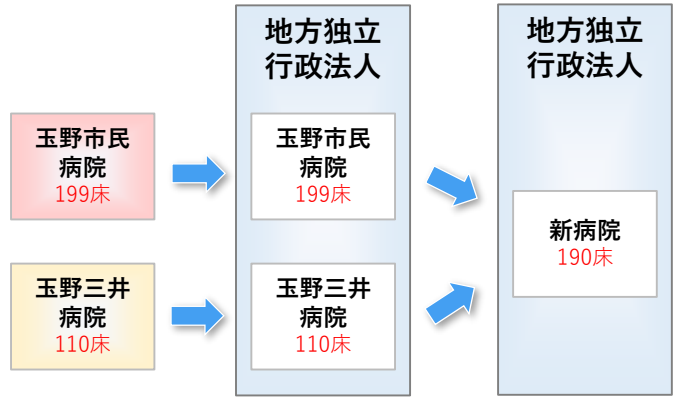
● 取組のポイント

- 経営統合、新病院建設について、地域医療構想調整会議の機会を通じて、早期に関係者への周知、理解を得ることができた。
- 経営統合に際して、重点支援区域の選定、統合支援給付金の給付を受けられたことで、財政的な課題に対するハードルを下げることができた。
- 新病院の建設において、再編・ネットワーク化計画を策定し病院事業債（特別分）を活用することで、将来的な財政負担を軽減することができた。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　56,799人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　103.58km^2（令和4年1月1日時点）
- 許可病床　309床（令和3年度決算）

統合のイメージ



● 取組のスケジュール

- 平成28年度から協議会を設置し、関係者との地域医療の在り方について協議を開始。
- 令和元年9月に2病院で基本合意を行い、令和3年4月に地方独立行政法人を設立し経営統合。

● 今後の展望

- 令和7年1月に予定する新病院の開院により、2病院から1病院への施設統合を実施。
- 新病院を中心に市内医療機関、医師会等との連携を強化し、地域医療体制の充実を推進する。